

地域の 拠点づくり 戦略



自分たちでつくる、
まちの景色を変える
地域のアクション



目次

Chapter1	はじめに ～未来に向けて、動き出そう～	2
Chapter2	一緒に、地域の未来をつくっていこう ～地域の拠点づくりのポイント～	5
Chapter3-1	地域の拠点づくり、始まっています ～地域のアクション～	12
1	神辺地域	13
2	松永地域	25
3	新市地域	35
4	沼隈・内海地域	44
5	駅家地域	64
Chapter3-2	まだまだある！地域の魅力	73

Chapter 1

はじめに

～未来に向けて、動き出そう～

地域から、まちの景色を変えていこう

福山市には、多くの地域固有の歴史、文化、コミュニティ、自然、環境があり、現在まで守り育て、引き継いできました。人口減少社会において、都市の活力を維持していくためには、地域“ならでは”の魅力を見つめ直し、地域資源を活用しながら私たちが育ち、暮らし、働く、「地域」の価値を一層高めていくことが重要です。

そして、今、市内の各地域に、様々なまちの変化のきざしが見え始めています。

神辺駅西口と国道182号をつなぐ川南1号幹線((都)神辺駅御幸線)の開通、市内唯一の道の駅であるアリストめまくまの再整備…こうした変化の中で、地域の皆さんが主体となった、地域の魅力や活力の向上をめざした意見交換の場が市内の6地域で立ち上がり、地域の拠点づくりが始まりました。

「地域の拠点づくり戦略」は、こうした地域の議論・取組やこれからのまちの未来についてまとめたものです。

地域にこれから関わり始める人には、一步を踏み出すためのガイドとして、

「地域の拠点づくり」に取り組んでいる人には、これからの道しるべになればという思いでまとめています。

地域の皆さんが主体となり、行政も一緒になって、まちの未来をつくる取組が今、各地域で動き出しています。

自分に身近な地域から、一緒にまちの景色を変えていきませんか？

地域の拠点づくりが始まっています

2025年度時点で、福山市内の6地域(神辺・松永・新市・沼隈・内海・駅家)で「地域の拠点づくり」の取組が始まっています。

「この地域を元気にしたい!」「みんなで一緒に地域を盛り上げたい!」という思いから意見交換の場が立ち上がり、

そこには、学区を超えた幅広い世代の地域の皆さんが集いました。

地域によって、議論や取組のテーマ、プレイヤーも様々です。

【各地域の拠点づくりのテーマ】

神辺	みんなでつくる神辺駅西側のまち
松永	みんなで考える松永駅北口のまち
新市	かわまち広場から人と人がつながるまち
沼隈・内海	道の駅アリストぬまくまと海を生かした南部地域
駅家	駅家公園から元気で暮らしやすい駅家エリアへ

どの地域にも共通するのは、
「自分たちの地域は、自分たちで考え、決めて、つくっていく」
という、地域の皆さんの熱い想いです。



Chapter 2

一緒に、地域の未来をつくっていこう ～地域の拠点づくりのポイント～

既にまちに関わり、活動している **福山さん** と
まちに興味はあるけど、どうやって関わり始めたらいいか悩んでいる **福海さん**
福山さんから福海さんへ、地域の拠点づくりのポイントを伝授しているようです。



福山さん

福山生まれ福山育ちの44歳。中学1年生の子どもを育てるお母さんです。まちに元気がなくなってきたことが気になり始めていたとき、地域活動に積極的なママ友とPTAで出会い、誘われるままに地域活動を始めました。今はNPO法人で、居場所づくりや地域イベントなどに、仲間と一緒に楽しみながら取り組んでいます。

2 合併を繰り返してきたからこそ、それぞれの地域に特色や魅力があるのが、今の福山市なんよ。
「地域の拠点づくり」は、そんな特色ある地域から元気になって、福山市をもっといいまちにしていくことなんよ。

3 各地域の取組を参考にした「地域の拠点づくり」のポイントを一緒に見てみようね。

1

「地域の拠点づくり」って、
どういうことをするんですか？



福海さん

福山生まれ福山育ちの19歳。市内の大学で建築や都市づくりを学んでいる大学2年生です。大学で勉強するうちに、出歩く人が減ったまちの様子が気になり始めていました。大学の先生から紹介されたまちづくりの公開講座に参加してみると、「地域の拠点づくり」という気になる言葉が。講座終了後、講師の福山さんに詳しく聞いてみることにしました。

ポイント 1

地域のことを知ろう

地域のことを知るために、調べたり、誰かに聞いたりしてみましよう。
一人でもできること、仲間と一緒にだからこそできること、
様々な形で地域と“関わりしろ”を増やしてみましよう。



- 1 まちを知るには、まずはまちの様子や人の流れを観察したり、体感することじゃね。
まちを歩いてみる、まちの情報を知る、地域の催しに行ってみる。
そんなところから、始めてみるのもええよね。
ないものねだりじゃなく、「あるもの探し」をしていったら、地域“ならでは”のお宝が見つかるかもしれんよ！

2

そういえば、最近、
大学と家の往復しかしてないな…
家の近くを歩いてみようかな。



地域に関する資料へアクセス

- 例えば、
- ・「#福山アンバサダー」が付いたSNS投稿
 - ・ふくやま観光・魅力サイト「えっと福山」や福山観光コンベンション協会などのサイトで福山市の魅力をチェック！



- 例えば、
- ・行政が公開している統計データにアクセス
市町村・都道府県・国…統計資料はたくさん！



地図で見る統計 (jSTAT MAP)

統計 ふくやま
福山市

- 例えば、
- ・図書館で郷土資料を調べる。
 - ・美術館・博物館で郷土資料を見学する。



まちを歩いてみる

- 例えば、
- ・地域で開催しているフィールドワークに参加して、地域の成り立ちを知る！



新市 まち歩きイベント
(詳しくはP41へ)



内海 まち歩きイベント
(詳しくはP61へ)

- 例えば、
- ・近所の散歩中でも、意識して地域を観察してみたら、素敵な魅力が見つかるかも。



ポイント
2

みんなと話そう つながろう

より多くの人と話し、つながることで、アイデアがどんどん広がります。



1 まちへの気づきを持ち寄って、
どんなことができるか話してみたり、
まちで知り合いと立ち話をするのも
つながることの一つじゃね。

意見交換会には、
仕事で関わりがある人、
この地域が好きでいろいろ顔を出してる人、
いろんな人が参加してくれとるから、
つながりが広がっていくんよね。

2 僕も地域の意見交換会に
勇気を出して行ってみたら、
いろんな人のまちに対する思いを聞いて、
すごく刺激になったんです。

仲間と一緒に「チーム」でやるのも、
一人ではできないことが
できそうだなと思いました！



各地域で様々な行事や意見交換会が行われています。
地域でのちょっとした立ち話も「話せる・つながる場」になります。



気軽な立ち話



松永駅北口を考えるワークショップ（詳しくはP27へ）



内海町まちづくりミーティング（詳しくはP58へ）

ポイント 3

できることから始めてみよう

地域との関わりの中で自分でできることを考えて、始めてみましょう。



2 自分で「やってみる」のは
すごくええね。
でも、大事なのは、
まずは自分でできることから
始めること。
つまり、無理しないことじゃね。

1 まちのみんなと話したら、
地域のイベントを主催したり、
まちづくり団体を設立したり、
みんな行動力があるなあと感心しました。
自分にも何かできないかな？

3 できること、小さなことからで
いいんですね！
人によってできることの大きさは違うし、
まずは自分でできることから楽しんで
やってみるのが大事ですよ！



地域で「できることから始めてみた活動」がたくさんあります。



神辺 廉塾バラの地域植栽
(詳しくはP17, 23へ)



松永 せせらぎ公園水路の清掃
(せせらぎイルミの準備) (詳しくはP29へ)



神辺 みんなの公園きょう夜市
(詳しくはP18へ)

ポイント 4

振り返りをしながら、続けていこう

小さく始めてみた後に、振り返ってみましょう。
そして、続けていく方法を探してみましょう。
うまくいかなかったら見直して、うまくいったらどんどん伸ばしていきましょう。



2 実践したら、
振り返るのが大事なよ。
やりたいことも大事だけど、
関わってくれた人の声を聞いて、
必要な視点を補完して、取組を
アップデートするのが重要よ！

1 まちに出歩く人が少なくて、
なんだか寂しいのが気になって……
住んでいる人が行きたくなるような場所が
近所にあったらと思ったので、
学生が勉強したり、地域の人が
気軽に話に来たり、自由に過ごせる居場所を
交流館に作ってみることにしました。

3 振り返りって確かに大事ですよ。
やり方は変わっていても、
続けていきたいです！



仲間と活動を振り返ったり、参加者から感想を聞いたりして、みんながもっと笑顔になる取組にしていきます。



地域の意見交換会や懇親会で成果や情報を共有



出典：(株)かこ川商店HP

参加者との会話の中で、ニーズを把握



SNSで、様々な意見や声を拾ってみる

地域と関わってみたい！ そんなときは…

- ・取組をもっと詳しく聞きたい！
 - ・意見交換の場があるなら参加してみたい！
- と思ったら、相談してみてね。



行政

地域拠点形成推進課

地域の拠点づくり戦略に基づき、地域の拠点づくりの総合調整を担当しています。

☎(084)928-1303

まちづくり推進課

各学区（町・地区）自治会やまちづくり推進委員会など住民の自治組織の支援、市民活動の支援、交流館の管理運営を担当しています。

☎(084)928-1051

まちづくり企画課

地域活動の維持、活性化や地域の課題解決に係る施策の調査や研究を担当しています。

☎(084)928-1302

各地域の地域振興課

- ・各学区にある交流館と連携しながら、各地域の地域情報の提供や市の支援制度等の紹介により、まちづくり全般の推進を担当しています。
- ・困った時は、まずは地域振興課へ相談してください。

神辺地域振興課 ☎ (084)962-5026

松永地域振興課 ☎ (084)934-5443

北部地域振興課 ☎ (084)976-9460

南部地域振興課 ☎ (084)980-7713

中部地域振興課 ☎ (084)932-7265

東部地域振興課 ☎ (084)940-2574

「地域の拠点づくり戦略」や地域の拠点づくりに関わる最新情報は、
福山市ホームページへ

福山市 地域の拠点づくり

福山市まちづくりサポートセンター(まちサポ)

各種団体と連携した
まちづくりはこちら

- ・あらゆる市民活動を全市的に支援する、まちづくりに関わるみんなの交流拠点です。
 - ・様々な団体とのマッチング、情報の受発信、団体・人材育成、相談窓口など、まちづくりの専門家が、あらゆる視点からまちづくりに参画する皆さんをサポートしています。
 - ・また、まちサポに団体登録することで、会議室が利用できたり、団体運営に関わる情報を受け取ることができます。
 - ・法人化の相談や団体を作るための個人からの相談も受け付けています。
- ☎(084)923-9006

福山ビジネスサポートセンター Fuku-Biz(フクビズ)

ビジネスを通じた
まちづくりはこちら

- ・人と人がつながり、地域も人も元気にするビジネス支援を行っています。
 - ・備後圏域すべての個人事業主、創業希望者、中小企業の支援拠点です。
 - ・創業や新規事業化に向けた支援などあらゆる事業の悩みを無料で受け付けています。
 - ・相談、課題の発見、解決策の提案から形にするまでのサポートを行っています。
- ☎(084)959-5210



1

地域の拠点づくりのポイント
を見てみて、どうだった？

3

意見交換と取組の実践の積み重ねで、
まちの景色は少しずつ
変わっていくんじゃないかって思うんよ。
“みんなが住む地域”だからこそ、
地域と行政が同じ思いを持って
進めていくのが大事なんよ。

5

地域が主体でやるから、
同じ取組は一つとしてないんよ。
答えはそれぞれの地域にあるんよ。

6

次のチャプターから、各地域で始まった
「地域の拠点づくり」を見ていこうねー。

2

まちについて、知って、話して、
動いて、振り返り、そして、続ける。
基本的なことですけど、
こういう基本の積み重ねがまちを
良くすることにつながるんですよ。

4

地域が主体で進めるから、
地域によって取組の切り口や
方法も違うんですよ。
そこが「地域の拠点づくり」の
おもしろさですね。



Chapter 3-1

地域の拠点づくり、始まっています

～地域のアクション～



1 ここからは、6つの地域で始まっている「地域の拠点づくり」の議論や取組、今後5年程度の展望を紹介するよ。

どの地域も、まちに変化の“きざし”が見えていて、めざすまちの姿の実現に向けた取組が動き出しとるんよ。

3

今後も戦略は進捗に合わせて更新していくよ。

- 神辺地域
- 松永地域
- 新市地域
- 沼隈・内海地域
- 駅家地域

2

具体的な取組が始まった地域もあれば、意見交換を始めたばかりの地域もあるんですね。



4

各地域の議論や取組の進捗が見てわかるんですね！
今後は楽しみです！

1 神辺地域

-大きく変わるまちの姿-

ついに供用開始！！

神辺駅西側で進む社会基盤整備が
2026年3月におおむね完成し、
神辺駅と国道182号がつながります！

新たに整備された主なもの

- ・川南1号幹線（（都）神辺駅御幸線）
- ・（仮称）川南公園
- ・神辺駅西口広場



北部エリアのバス路線検討 に向けた実証実験

(2026年10月頃予定)

神辺駅を基点とし、北部エリアの大型
商業施設や医療機関、福山北産業団地
等を結ぶ新たなバス路線を検討中！

神辺駅西口広場完成イメージ

神辺駅

(仮称)川南公園完成イメージ

拠点づくりの“きざし”

リーディングプロジェクト

かなべにぎわいビジョン

コラム

-新しいまちの形成- 神辺駅西側

公園整備の設計にも地域の 利活用についての声を反映！



整備後の利活用を想定し、地域と一緒に考えるワークショップを開催し設計に反映しました。

道路を活用した 地域主体の動き

神辺町商工会青年部が道路を活用したイベント「かなべストリートフェスティバル」をこれまでに3回開催しています。



公園の完成を先取り した実証実験Ⅰ



神辺みんなの公園
にちょうマルシェ
(詳しくはP18へ)

公共空間の整備から、
その利活用まで、
みんなで作るまち
の取組が進行中！

2025年
9月

公園の完成を先取り した実証実験Ⅱ



神辺みんなの公園きんよう夜市
(詳しくはP18へ)

神辺では、
“新しいまち”を
地域の声を
聞きながら
つくつとるんよ。



2023年10月～
2024年2月

地域と一緒に考えた計画

2019年に策定した
「川南地区まちづくり
新ビジョン」により
土地区画整理事業等が
動き始めました。
(詳しくはP19へ)

2019年
2月



かなべにぎわいビジョン2024



自治会、交通事業者、専門家等で構成する協議会の意見を伺いながら地域住民等も参加する「かなべ未来会議」で策定しました。神辺駅周辺のにぎわい創出をテーマに地域と共に未来のまちの姿をイラストでイメージしています！ビジョン策定後は「むすびの驛（えき）かなべ会議」に名前を変え、未来のまちの姿の実現に向けた議論等が続けられています。

神辺地域

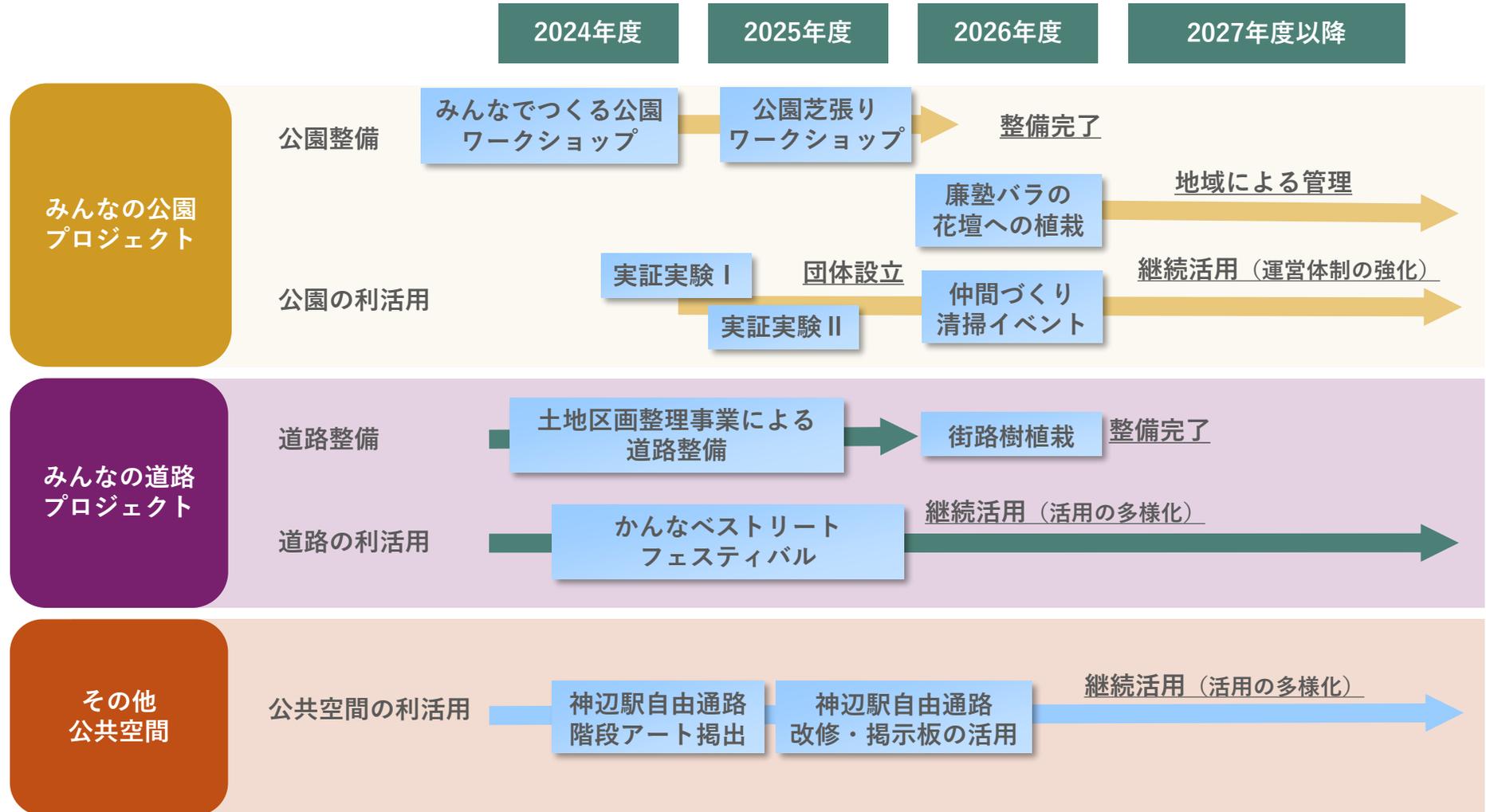
拠点づくりの“きざし”

リーディングプロジェクト

かなべにぎわいビジョン

コラム

ロードマップ ～みんなでつくる神辺駅西側のまち～



みんなの公園プロジェクト 公園整備

「みんなでつくる」公園

「（仮称）川南公園」の整備にあたっては、設計段階から地域住民とワークショップを3回行いました。「こんな使い方ができるといいな」

「こんな公園ならみんなが使いやすい」という声を元に、エリア分けや必要な機能などを具体的にイメージしながら意見を出し合い、とりまとめました。

一例ですが、ワークショップで出された「散歩がしたい」「小高い丘が遊びやすい」などの声はそれぞれ園路や丘の設置につながりました。

第1回のワークショップテーマ

- 「どんな公園にしたいか」
- 「どう公園を使いたいか」

公園の基本方針

多様な過ごし方ができる
管理しやすく使い続けられる
みんなに優しい公園

Aグループ

どの世代もリピーター！一日中遊べる公園

パパママも誰もが安心して行ける公園
いろんな世代が楽しみゆっくり過ごせる場所に
中高生が過ごせる公園
ピクニックしたい
祖父母と孫と一緒に過ごしたい



Bグループ

シンプルでおしゃれな公園

気軽に集える場所
おしゃれなマーケットが開催できる公園
リラックスできる場所
野外コンサートができる
散歩コースに組み込みたい



Cグループ

幅広い年齢層がのびのびと使える公園

ボールで遊べる公園
日陰があって休める公園
見通しの良いオープンな場所
自由に使いたい
地域の人と交流したい



「みんなで育てる」公園

公園整備の終盤には、地域住民や子ども達と一緒に芝を張るワークショップを開催しました。

整備にも多くの人に関わってもらいながら住民の皆さんの思いが詰まった利活用しやすい公園がつくられています。

整備後も、地域住民が愛着を持って気軽に活用できる公園をめざして、イベント開催などによりみんながつながる場所へ育てていきます。



芝張りの様子

Pick up

～みんなで育てる公園 廉塾バラ植栽～

神辺駅東側に所在する特別史跡「廉塾ならびに菅茶山旧宅」の敷地に咲いていた赤いばらを地域で「廉塾バラ」と名付け、普及活動を行っています。

今回、新しく整備された公園にも地域住民によって廉塾バラが植えられる予定です。



廉塾バラを植えている様子
（神辺図書館前（神辺文化会館中庭））



（仮称）川南公園完成イメージ

みんなの公園プロジェクト 公園の利活用

実証実験Ⅰ にちようマルシェ

【概要】

工事中の公園予定地付近で開催した「日曜の昼の公園」をイメージした北部エリアの魅力が詰まったマルシェ

【ねらい】

- ・子育て世帯など、利用が想定される人へ新しい公園ができることの周知
- ・地域を盛り上げる仲間探し
- ・日曜の昼の公園活用の事例提案
- ・公園利活用のニーズを調査するアンケートの実施

日時 2025年3月9日(日)
場所 (仮称)川南公園周辺

日曜日の昼
こどもが遊ぶ姿・・・



新たな公園でどんなことができるかなど聞き取り

実証実験Ⅱ きんよう夜市

【概要】

神辺駅西口の民有地を公園に見立て開催した「大人が楽しめる夜の公園」をテーマとした夜市。ドリンクを片手に、音楽やフードを楽しむちょっと特別な金曜の夜を演出しました。

【ねらい】

- ・新しい公園ができることの周知
- ・公共交通機関からの誘客
- ・金曜の夜の公園活用の事例提案
- ・活用したいと考える仲間探し

日時 2025年9月26日(金)
場所 (株)サンエス所有地



金曜日の夜
仕事帰りにリラックス・・・

Pick up

～まずやってみる～

公園の活用を考える実証実験に、私も運営メンバーとして参画させていただき、そこで、「自分たちもまずは何か動きだそう！」と考えるようになりました。実証実験当日に、こどもから大人まで地域の人が集まり、楽しむ様子を見て、こうした取組を無理なく継続していきたいという思いが芽生え、活動団体を有志とともに設立しました。今後は公園を中心に、日常の延長で参加できるようなイベントを育てていきます。

任意団体「まちのたね かなべ」

神辺町に小さな“種”をまき、ゆっくりと芽が育っていくようなまちづくりの活動を行うことが目的です。公園を中心に、イベントの企画や運営を行い、地域とのつながりや交流が自然と芽生える場づくりやきっかけをつくるために設立しました。



代表の藤井さん

Pick up

～新たな協力～

夜市の開催に当たって、公園周辺の工事が本格化したため、開催場所がなかなか決まりませんでした。むすびの驛かなべ会議で、この話をすると、地元企業の(株)サンエスから「地域のためなら」と、所有地を会場として貸していただけることになりました。当日の運営にも協力いただき、実証実験当日は多くの大人やこどもでにぎわいました。実現困難なことでも思いを共有したり、相談することで、協力の輪が広がりました！



準備が進む会場

みんなの道路プロジェクト 道路整備

「みんなで作る」道路

神辺駅西側の川南1号幹線（（都）神辺駅御幸線）の整備は、「川南地区まちづくり新ビジョン」に基づき実施されました。

このビジョンでは、土地区画整理事業や都市計画道路の整備などが盛り込まれています。

事業計画策定の段階から地域で議論を重ねて、川南1号幹線（（都）神辺駅御幸線）の整備が実現しました。

「みんなで彩る」道路

川南1号幹線（（都）神辺駅御幸線）の整備は、2026年3月におおむね完成しますが、その植樹帯にはまだ何も植えられていません。

新しいまちの真ん中を通る道路沿いの植栽は、まちの景観を印象付ける重要なものです。

地域住民が描くまちのイメージに合う植栽を、みんなで一緒に考えていきます。



Pick up

～川南地区まちづくり新ビジョン～

約50年前から計画されていた土地区画整理事業を実現可能な計画とするため、地権者・住民・自治会等の関係者の意見を反映し、2019年に策定した計画です。

これにより、神辺駅西側の新たなまちづくりが動き出しました。



神辺駅西側と国道182号をつなぐ川南1号幹線（（都）神辺駅御幸線）

みんなの道路プロジェクト 道路の利活用

かなべストリートフェスティバル

【趣旨】 神辺町の商工業を知ってもらい、神辺愛を育む。

まちに出歩き、神辺のまちの変化を知る。

【主催】 神辺町商工会青年部

【時期】 ①2024年2月 ②2024年11月 ③2025年11月

【場所】 ①三日市通り ②③整備中の川南1号幹線

【概要】 神辺の「美味しいもの」や「ものづくり文化」に触れることができる、マルシェ型複合イベント

地元中学生・高校生がボランティアとして参加したほか、神辺中学校や神辺高校がブースも出展しました。

神辺駅東側の道路で始まったイベントですが、整備中の道路は広く、未活用はもったいない、駅西側も盛り上げていきたいという思いから検討され、第2回から川南1号幹線（（都）神辺駅御幸線）での開催が実現しました。



地域がつながるきっかけにも

行政×地域住民 [ベンチ作成ワークショップ]



こども達みんなで作りあげ、堂々公園花壇に設置しました。

高校生×地域のお店 [Honey (歯に良い) パンの販売]



高校生が地元のパン屋さん協力のもと、考案した「Honey (歯に良い) パン」。イベント当日にパン屋で生徒自ら作り、ブースで販売しました。また、地元で収穫した野菜をJAの協力のもと販売しました。

その他公共空間 駅の利活用

神辺駅西側と東側のまちをつなぐ神辺駅

自由通路の改修や西口広場の整備が行われた新たなまちの玄関口となる神辺駅。その神辺駅の東側には、特別史跡「廉塾ならびに菅茶山旧宅」を始め古くから続く歴史的なまちなみがあり、神辺駅の自由通路は雰囲気異なる東西のまちをつないでいる空間でもあります。

そんな趣向の異なる東西のまちを知ってもらおう、まちの雰囲気を盛り上げようと、空間を彩る階段アートや自由通路の美装化に取り組みました。

それぞれのエリアのまちづくりを尊重しながら、まちの雰囲気を感じられ、東西のまちをつなぐ、そんな場所をめざしています。

神辺駅自由通路の階段アート掲出



西側階段の上段に貼られる
かなべにぎわいビジョン2024



2024年度(令和6年度)神辺高校美術部



2024年度(令和6年度)神辺旭高校美術部

東側階段は神辺高校、西側階段は神辺旭高校の美術部がそれぞれ地域を題材に描いた絵を掲出

Pick up

～神辺駅自由通路の掲示板活用～

神辺駅の自由通路には、以前から掲示板がありましたが、掲出されているものはまばらでした。これまであまり使われていなかった掲示板をJR西日本、福山大学と共に整理し、地域の取組のチラシをまとめて掲出しました。空間に一体感が生まれ、人も思わず足を止める雰囲気を演出しています。



他にも、まちの将来をイメージした「かなべにぎわいビジョン2024」を掲げ、地域の魅力を高め、にぎわいづくりに取り組んでいる事例がたくさんあります。

かなべにぎわいビジョン2024



「むすびの驛（えき） かなべ」について

まちを駅に見立て、訪れる人や暮らす人をつなぎ、こどもから高齢者まで「幸せ」を感じるまちの姿を旧字体の「驛（えき）」で表しました。

神辺駅を中心として、東側は歴史と文化が息づくまち、西側は社会基盤整備をもとにこれからつくる新しいまちにそれぞれ多くの人が出歩き、充実した日常をおくる姿をイメージして描かれています。

地域で進む「歴史文化を生かしたまちづくり」

神辺駅東側で進む「歴史文化を生かしたまちづくり」は、多くの団体や地域住民により、長年継続されてきました。現在では、地域の特色を生かした様々な取組へと広がっています。地域の有志による取組の一部を紹介します。

神辺遺産

有形、無形を問わず、地域に慣れ親しまれ、地域住民が後世に残し継承すべきとする個々の建物・施設・行事や自然・景観などの地域の「宝」を概念規定するものです。2023年から認定を開始し、2025年までに11件認定され、神辺遺産を巡ってもらおうとスタンプラリーも開催されています。



古民家の活用

江戸時代後期の古民家がいくつか残っており、リノベーションの末、カフェの開店につなげた事例もあります。また、学校法人福山大学（福山大学、福山平成大学）は別の古民家をサテライトキャンパス「神な備-旧松本家住宅-」とし、地域の「学び」の場等として使用されています。その中庭を地域が廉塾バラ園として整備したり、フォトコンテストの写真展示等各種催しに活用しています。



廉塾バラの普及

特別史跡「廉塾ならびに菅茶山旧宅」の中門脇に赤く咲く品種不明の珍しいバラがあり、これを地域で「廉塾バラ」と名付け、神辺全域へ広めていくことを計画しました。これまでに地域により接ぎ木講座の開催や神辺駅東口、商業施設花壇、公共施設等へ植栽をしています。また、世界バラ会議福山大会2025の開催に併せて、神辺駅の東側のまちにバラを展示する「廉塾バラ回廊」が実施され、廉塾バラの飴や葛湯などの開発も地域により行われました。



地域を盛り上げる様々な取組

交流

三日市通り水曜夜店

主体：神辺わかば会
神辺駅東側の道路を舞台に毎年7月の水曜夜に開催される夜店。

歴史学習

廉塾まつり

主体：神辺町観光協会
廉塾ならびに菅茶山旧宅で開催されるまつり。廉塾の見学会などが行われている。

歴史学習

地域の小中高生による 神辺本陣「動く江戸空間」

主体：（一財）菅波教育文化振興財団
こども達による茶道・華道・琴演奏・ガイド・論語素読のほか黒田家行列の再現。

子育て

古民家を活用した子育て支援

主体：大きな木の下で
神辺交流館近くの古民家を借り上げ、産前産後の親子を対象に育児生活の伴走支援。

地域連携

地元企業による取組

主体：（株）かこ川商店

地域共創拠点areal wakka

みんなで幸せになる循環型地域をめざして取組を実施。参加型農業『ふれあい農園片山』も実施中。

みんなでつくるkurukuruプロジェクト

地域とのつながりを広げていく場をめざし、再利用できる材料を生かしながら自分たちで古民家を再生していく、もの・場所・人の力を循環させる取組。

コラム

これから動き出しそうな、様々な取組の“芽”

紹介した取組以外にも様々なアイデアが地域から出ています。

今後動き出すものもあるかもしれません。

- ・高屋川から神辺駅をつなぐウォーキングルートを設定したい
- ・歴史ストリートをつくりたい
- ・定期的に歩行者天国化したい
- ・駅前にイベントステージを設けたい
- ・周遊型謎解きゲームをつくりたい
- ・世代関係なく集まれるBarをつくりたい

これまでもいろんな取組がある地域だから、新しい動きや「芽」を咲かせることで、新しいまちの姿ができていくんですね！



2 松永地域

-変わり始める駅周辺-

現状



平日昼間の松永駅北口

通勤・通学で通りすぎる人や送迎の車は多いが、滞留時間が短く、松永駅北口の通りが少し寂しさを感じさせます。

非日常



イベント時の松永駅北口
(まつながHALLOWEEN2025)

松永駅北口で行われていた夜店の約30年ぶりとなる復活開催や3年連続のハロウィンイベントなど季節ごとにイベントが行われ、少しずつまちの変化が始まっています。

「非日常」から「日常」へ

イベントで人が集まる「非日常」のにぎわいを「日常」のにぎわいにつなげるにはどうしたら良いのか。松永駅北口の「日常」がめざす姿を考えながら、地域と共にまちが変わり始めています。



拠点づくりの“きざし”

リーディングプロジェクト

にぎわい再生ビジョン

コラム

「非日常」から「日常」へ
-松永駅北口-

地域主体の活気に満ちる
非日常イベント



地域の皆さんが
松永駅北口の
「日常」について
考えとるよ。



自分たちの日常的な利活用について考える！



非日常のにぎわいを
「日常」につなげる、
みんなで考えるまち
の取組が進行中！

2025年12月

ビジョン策定後は、自分のやりたいことなど松永未来会議で意見交換を重ねてきました。12月には、松永駅北口の日常的な利活用について考える「松永駅北口を考えるワークショップ」を開催し、駅北口旧商店街エリアにおけるにぎわい再生に特化した議論を始めました。
(詳しくはP30へ)

地域の有志により、松永駅北口を会場にハロウィンイベントを開催。日常的には通勤通学者など通過する人々が多かったエリアに、こどもから大人まで数多くの人が集い、当日は活気であふれています。

2025年3月

松永駅周辺にぎわい
再生ビジョン



自治会、地域の事業者、大学等で構成する協議会や住民等が参加する松永未来会議を立ち上げ、意見交換し、策定しました。松永駅周辺のにぎわい再生をテーマに地域と共に未来のまちの姿をイラストでイメージしています！

2023年
10月～

空間を明るくした地域主体の動き

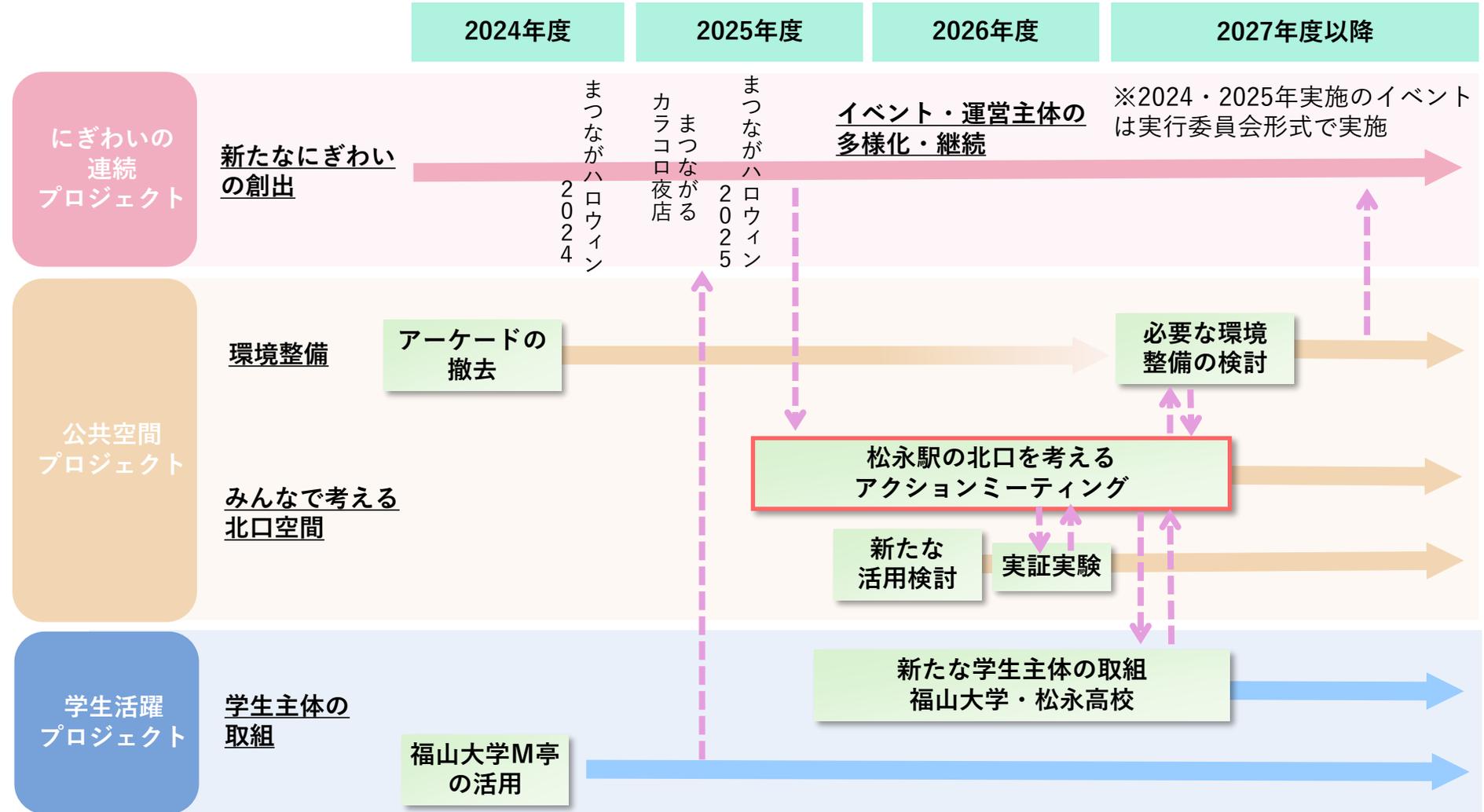


松永駅北口の商店街組合は解散となり、当時のアーケードを残し寂しい雰囲気になっていました。



地域の有志により、松永駅北口の老朽化したアーケードの撤去が始まっています。
(詳しくはP30へ)

ロードマップ ～みんなで考える松永駅北口のまち～



にぎわいの連続プロジェクト

非日常から日常へ

私が中学生のころ同級生が「松永には将来戻ってこない」と話していることに危機感を覚え、松永にいると楽しいと思ってもらえるようなことができないかと考え、イベントを企画しました。

松永駅北口では老朽化したアーケードを逆手に取ったハロウィンイベントをこれまでに3回、約30年ぶりとなる夜店復活、また、南口では冬のイルミネーションなど、松永が少しずつ変わり始めていると感じる非日常的なイベントの開催により松永を盛り上げています。

こうしたイベントがたくさん生まれて、日常的なにぎわいにつながるようなことをしていきたいです。

中心となって各イベントを進める
高校生の本多さん



これまでの取組

・まつながHALLOWEEN (2023～)

2023年から松永駅北口で地域により始まったイベント。ハロウィンに合わせたコスプレやゾンビの演出なども行われています。



・まつながる カラコロ夜店 (2025～)

ハロウィンと同じ松永駅北口で2025年に約30年ぶりの復活開催された夜店。こどもから大人まで数多くの人々が歩き、初夏の夕暮れを楽しみました。



・せせらぎイルミ (2024～)

松永駅南側のはきもの資料館前のせせらぎ公園で冬に開催されるイルミネーション。点灯時には飲食も楽しめるナイトマーケットも行われました。



Pick up

～まずは小さなことから始めよう～

地域の団体が松永を盛り上げていくために最初に行ったのは、毎月の清掃活動でした。活動をSNSで発信すると同じ思いを持った仲間が集まりました。

こうして集まった仲間が今の活動の原動力になっています。身近にできる小さなことから始めた取組が現在の様々な動きにつながっています。



「非日常」から「日常」へにぎわいが広がっていくよう、話し合いが始まった背景に、地元有志のイベント開催による地域の盛り上げがあったんだね。



公共空間プロジェクト

普段の生活、日常の姿を考える

松永駅北口の景観や安全性の向上のため、地域住民による老朽化したアーケード撤去が進み、まちの景色が少し明るくなってきました。

今後、季節ごとにイベントで人が集まる「非日常」のにぎわいを、普段の生活の中につなげていくには、どうしたら良いのか。

松永駅北口の「日常」がめざす姿はどういったものなのかについて考え始めました。

みんなが当事者として「考える」まち

駅を降りて、松永駅北口を見渡すと、シャッターが下りている旧商店街が広がっていますが、これらの建物は住居として引き続き使用されています。

こうした中で、みんなが集う松永駅北口の空間にするためには、「どんな機能があれば良いか」など公共空間の整備に関する視点と、「公共空間を使ってどんなことができるか」「通り沿いに必要なコンテンツは何か」など、沿道を含めた空間活用に関する視点双方から考える必要があります。

こうした視点で議論を重ね、活用の実証実験を行いながら、みんなが松永駅北口を盛り上げていく当事者として「考えて」、居心地の良いまちをつくっていきます。



Pick up

～地域住民によるアーケード撤去～

旧商店街組合が設置したアーケードは老朽化が進み、歩行者への危険性と景観への悪影響が懸念されていました。アーケードが私有財産であるため行政での処分が難しい中、地域の有志が安全面に配慮しつつ、撤去を進めています。

こうした動きと共に、まちを盛り上げようとするイベント開催が増えつつあり、松永駅北口が明るく生まれ変わり始めています。



松永駅の北口を考えるワークショップ

学生活躍プロジェクト

日常的に駅を利用する若い世代

松永駅北口の「日常」を考える際に欠かせない視点として「学生」があります。これは、松永に所在する福山大学や松永高校の学生合わせて約2,000人が、通学で松永駅北口を日々行き交うことから、こうした大学生・高校生の視点も「日常」の姿を考えるうえで重要と言えるからです。松永の取組にはこうした若い世代も多く参画しており、世代を超えた多様な意見を出し合い、みんなで検討しています。

(参考) JR松永駅乗客数3,994人/日

「国土数値情報（駅別乗降客数データ）2023年度（令和5年度）版」（国土交通省国土政策局）より算出

Pick up

Pick up

～大学による地域の連携拠点～

福山大学の学生が行き交う松永駅北口は、福山大学の玄関口ともいえる場所です。ここに福山大学が地域の連携拠点として設置した「M亭」で学生と地域の皆さんが定期的に交流しています。「M亭」は、駅北口の「日常」が変わる可能性を持つ重要な場です。



地域で活躍する若い力～カープチェーdeつながる「おむすび」大作戦～

松永未来会議で出された「通学生徒の昼食を買う場所がない」「せっかくなら昼食になるメニューを松高生と福大生で開発できないか」という声をきっかけに、商品開発に向けて地元の高校・大学・スーパー等・行政がつながりました。まずは、松永ならではのメニュー開発を行っています。

地場商品開発～高校×大学×企業～

関係者 松永高校、福山大学健康栄養科学科、
地元スーパー(株)ニチエー、
おむすび屋しろくま

内容 高校生が考えたメニューのアイデアを大学生がレシピ化し、地元スーパー等が商品化して販売する取組

2025年度は、まつながカープチェー（P34参照）でおむすびを販売し、完売しました。



将来的に松永駅周辺で販売したいなあ……

他にも、まちの将来をイメージした「松永駅周辺にぎわい再生ビジョン」を掲げ、地域の魅力を高め、にぎわいづくりに取り組んでいる事例がたくさんあります。

松永駅周辺にぎわい再生ビジョン



めざす松永駅周辺の姿

「まつながに集まる、そしてつながる
～住む・学ぶ・楽しむが一体となった松永駅周辺～」について

松永未来会議を始めとして、議論されてきた
みんなのめざす未来の姿を表しました。

住む・学ぶ・楽しむが一体となった松永駅周辺



“緑”と“光”
歩きたくなる“まち”



おとなも子どもも国籍も関係ない！
みんながってみんないい！
共生の“まち”



新たなチャレンジを
地域で育む“まち”



笑顔で未来へ一って
だれもが楽しさを
実感できる“まち”



文化が出逢い、
喜びが共有される“まち”

めざす未来の姿に向けて、松永駅周辺エリアを、
「歩きたくなる」や「共生」、「新たなチャレ
ンジ」、「文化」といった様々な視点で捉え整理
しています。

地域を盛り上げる様々な取組

松永駅北口で進む民間による空き家のリノベーションや出店、松永駅南側のはきもの資料館やクリークの活用、学生による取組など、にぎわい再生に向けた取組が始まっています。

福山大学の地域連携

○建築学科

1年生・3年生による“松永のまち”を題材とした演習、“松永駅北口”や“松永駅南側のクリーク”を題材とした4年生による卒業研究など、松永駅のにぎわい再生を学生の学びに積極的に取り入れています。また、それらの学習成果の地域への共有などを通じて、大学と地域が共に発展していけるよう連携した取組を行っています。

○健康栄養科学科

カープデーdeまつながる「おむすび」大作戦（詳しくはP31へ）

学生による情報発信

地域への関心を高め、若い世代にも届く新しい松永PRの形をつくることを目的に活動しています。松永ゆかりの映像作家を中心に、福山大学の学生が地域のお店に突撃取材し、ショート動画を作成しています。



現在作成中！乞うご期待！



福山大学建築学科の学生による卒業設計

空き家の活用

駅北口の地域の人が空き家をリノベーションすることで借りやすくし、新たな出店につながっています。これまでに、ペルー料理店や理容院が開業し、今後も出店があるようです。



松永はきもの資料館（あしあとスクエア）の活用

松永はきもの資料館では、下駄・い草・塩などの松永地域を支えた産業についての貴重な資料を収蔵・展示しています。

足あと広場などを含む敷地内では、このような地域の歴史を感じながら、楽しみ、交流できる様々なイベントが開催されています。



フレンドリーピック まつながカープチェー

2010年から続いている、多文化共生のまちづくりをめざし、外国料理の提供やステージ発表などを行うイベントです。外国人住民が実行委員会に参画し、イベントの企画・運営を主体的に行っています。

2025年度は、新たに松永高校・福山大学・スーパー等・行政が協力し商品開発したおむすびを販売し、完売しました。（詳しくはP31へ）



公園の活用 まつながるワンにゃんマルシェ

松永駅南側の長和島公園では、犬や猫の保護活動を周知するため、パネル展示、保護犬の譲渡会と併せて、フリーマーケットやキッチンカー出店などのマルシェが開催されました。保護活動への理解を深めながら地域で交流できる機会となりました。



クリークの活用（ワンにゃんマルシェと同時開催）

塩や下駄の資材を運んでいたクリーク（水路）は松永の特徴的な資源です。この資源を活用しようと、福山大学の学生と図書館が連携し、読み聞かせや絵本の貸出しを行いました。クリーク（水路）が本に親しむ憩いの場となりました。



コラム

これから動き出しそうな、様々な取組の“芽”

松永未来会議では、紹介した取組以外にも様々なアイデアが出てきました。今後動き出すものもあるかもしれません。

- ・ 交流の場をつくりたい
- ・ レンタサイクルができる場所をつくりたい
- ・ 駅、駅前を活用したイベントをしたい
- ・ 宿泊施設を運営したい
- ・ ものづくりキャンプをしたい

松永では、若者や外国人住民も参加して、まちの景色を地域みんなでつくっていくんですね。



3 新市地域

拠点づくりの“きざし”

まちへの思い

動き出したプロジェクト

コラム



吉備津神社

豊かな自然と 歴史文化資源に恵まれた新市

新市町は古くから文化が栄え、
美しい自然に恵まれたまちです。

国の重要文化財に指定されている吉備津神社は、
2022年に半世紀ぶりの大規模改修が完了し、
現在は、本殿の国宝化に向けた官民による取組が
進んでいます。

平安時代から続く祇園祭で有名な^{すさのお}素盞鳴神社では、
けんか神輿で観光客の呼び込みに力を入れています。

近隣の芦田町では、江戸時代に砂防のため築かれた
別所砂留の国の文化財登録と、大谷砂留の保存のための
官民による取組が進んでいます。

新市町のまちは、南北の神谷川と東西の芦田川に
沿いながら広がっています。

伝統産業である^{びんごがすり}備後緋は、この芦田川流域の豊かな
土壌を生かした綿花・藍栽培から始まり、
現代まで「繊維のまち」として発展を続けてきました。



別所砂留



大谷砂留



素盞鳴神社（けんか神輿）



大滝の名水



藤尾の滝



備後緋

新市地域

拠点づくりの“きざし”

まちへの思い

動き出したプロジェクト

コラム

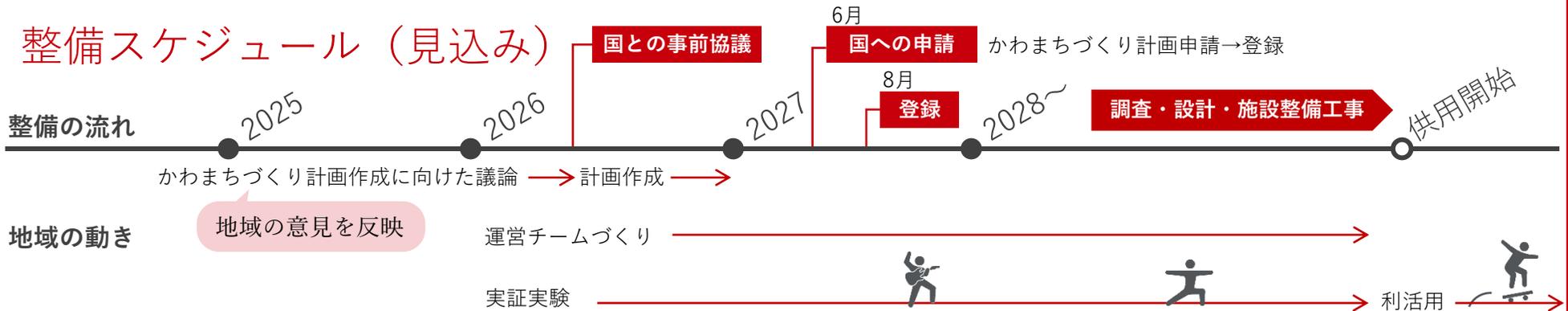
かわまち広場から 人と人がつながる

今、新市地域では、かわを起点としたにぎわいをまち全体へ広げるための取組が始まっています。

新市町と芦田町の人と産業をつなぎ、まち全体がよくなるきっかけとして“新市ならではの”かわまち広場づくりに取り組んでいます。



整備スケジュール（見込み）



地域活性化のために

これまでの歩み

2025年3月から、まちを元気にしたいという志を持った福山あしな商工会青年部を始めとする地域の若者の呼びかけで、**新市地区におけるかわまちづくり意見交換会**を開催しています。新市町と、芦田川を挟んだ南側の芦田町から各種地域団体、学生、事業者が集まり、行政とともにかわまち広場整備をきっかけにどのようなまちにしていくかを考えています。

仲間づくり

まち全体が元気になっていくためには、芦田川河川敷でのにぎわいの効果と地域のまちづくりの取組を結びつける必要があります。自然や歴史、産業など、様々な強みを生かした一体的なまちづくりを進めていくために、パブリックマインドを持った多くの分野のプレーヤーに参画していただくことが大切です。意見交換会やまち歩きなどを通して仲間を増やし、新市地区の将来について話し合っています。



強み・弱みなどを共有

新市地区の「良いところや魅力、強み」「弱み」などを話し合い、何のためにかわまち広場づくりをするのか考えました。

幅広い意見を聞く

まちの将来を担う若者の意見を取り入れるため
福山平成大学の学生による利活用のプレゼンテーションを実施しました。

また、隣接する広島県立戸手高等学校の運営協議会でもワークショップを行い、参加した**子育て世代**からも利活用のアイデアを集めました。

様々な人と意見交換をする中で、かわまちづくりに参加したいというプレイヤーが見つかりつつあります。

今後も様々な意見を取り入れながらかわまちづくりビジョンやコンセプト、利活用について考えていきます。



新市地区におけるかわまちづくり意見交換会の様子



利活用案のプレゼンテーションの様子（福山平成大学）

様々な意見交換の場を通じて

見えてきた「まち」への思い

良いところ、魅力、強み

- ・自然（星空、きれいな水、ホタル）が豊か
- ・歴史文化（古墳、祭、神輿など）に恵まれている
- ・人がやさしい
- ・まちのレトロさを楽しめる
- ・繊維産業（備後絣、デニム）が盛ん
- ・鉄道駅がある

弱み

- ・地域コミュニティが縮小している
- ・世代間・地域間・外国人との交流がない
- ・後継者がいない
- ・少子高齢化、若者が流出している
- ・こどもが安全に遊べる場所がない
- ・エンターテインメントが少ない
- ・産業・農業が縮小している
- ・空き家・空き地が多い

できること、したいこと

- ・多世代・多文化交流イベントの実施
- ・デニムを活用した製品づくり
- ・夜景スポットづくり
- ・川を活用したプロジェクトづくり
- ・川の浅瀬で環境学習の実施
- ・高校の授業や部活動で利用 など

まちの将来像

- ・活気、愛着があるまち
- ・自然を感じながら生活できるまち
- ・地域コミュニティが活発なまち
- ・こどもや若者がたくさん集まるまち
- ・学生が地元就職しやすいまち
- ・誰もが日常的に歩いて暮らせるまち
- ・健康に生活できるまち
- ・経済が活性化したまち

まちのために何ができるか考えるきっかけ

動き出したプロジェクト

まちにDive! まち歩きイベント

地域の歴史や魅力に詳しい「まちの知識人」の案内でまちの強み・魅力を共有するイベントを実施。新市・戸手・網引・常金丸・芦田に分かれ、高校生・大学生などの若者、社会人、高齢者などの多様な世代でまちを歩きました。

「何気なく通り過ぎていた場所の歴史・物語を知れた」「改めて知ったまちの魅力をつなげていきたい」などの感想があり、魅力的な人・場所を再発見することができました。

今後はこれらの地域資源を生かしてプロジェクトづくりを進めていく予定です。

地域が主体となったかわまちづくりを行っていきます。



人材発掘・育成

まち歩きイベントを始めとする
実証実験などを通してプレイヤー同士の交流を
促進する（マッチングの場をつくる）ことで、
チームづくりを行います。
その中で、かわまち広場整備後を見据えた
事業スキームの構築をめざし、
運営主体となれる人材やチームを
育成していきます。

コンテンツづくり

「文化・歴史」や「産業」を始め、
「空き家・空き地」なども含めた地域資源と、
新たなプレイヤーによる多角的な視点を掛け
合わせ、新市ならではの新しいコンテンツを
創出していきます。

情報発信

意見交換会や実証実験の様子など、
かわまちづくりに関わる多くの人が
この取組をタイムリーかつ積極的に
発信していきます。

- ・誰が、どんな思いで関わっているのか
- ・まちがどのように変わっていくのか、
続いていくのか
- ・今何をしているのか など

地域の人々や企業に知ってもらい、
自分ごと化してもらうことで、
プレイヤーをどんどん増やしていきます。
SNSやホームページ、回覧板など、
様々な方法で情報発信しています。



新市地区かわまちづくり委員会
公式Instagram



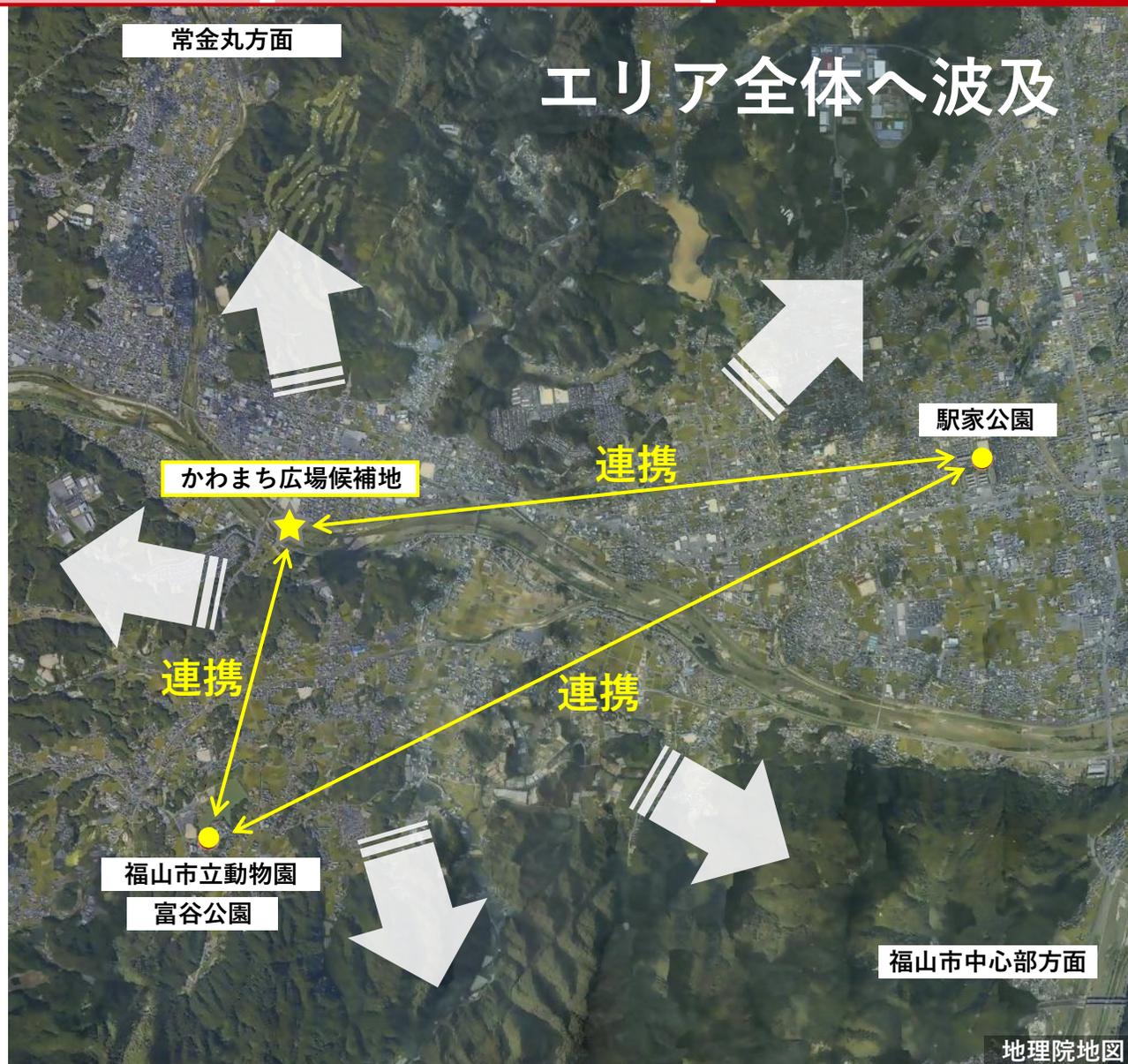
follow me

@KAWAMACHI_FUKUYAMA

周辺地域との 相乗効果を めざす

福山市の北部には、
福山市立動物園（芦田町）や
駅家公園（駅家町）など
様々な集客施設があります。

かわまち広場の議論の中で、
新市地域全体の活性化に向けて、
周辺施設や千代田地区かわまち広場
とも連携した活性化についても、
具体的な取組を検討していきます。



4 沼隈・内海地域

沼隈・内海地域

拠点づくりの“きざし”

沼隈の歩み

沼隈の思い・取組

内海の歩み

内海の思い・取組

コラム

古くから潮待ちの港として栄えた鞆町に開通した鞆未来トンネル。
2029年度のリニューアルオープンに向けた検討が進む、市内唯一の道の駅アリストぬまくま。
福山市観光振興基本戦略（2025年度改定）では、南部地域をモデルエリアとして周遊観光に取り組む方針としています。

南部地域で始まった様々な動きによって、地域全体が盛り上がり始めています。

道の駅アリストぬまくまの再整備



2029年度のリニューアルオープンに向けた検討を行っています。

[view more 1](#)

地域で広がる海の取組



豊かな海の魅力を生かした地域での取組が広がる中、産官学民による「共同会議」が設置されるなど、地域全体の活性化に向けた動きが始まっています。

[view more 2](#)

鞆未来トンネル 鞆地区東西交通・交流拠点



2025年3月に鞆未来トンネルが開通し、南部地域の周遊性が向上しました。2027年度には、鞆観光の玄関口として、鞆地区東西交通・交流拠点もオープンする予定です。

せとうちエレジー 福山沼隈半島体験博



南部地域の住民や事業者が、海や山などの豊かな地域資源を生かした多彩な体験プログラムの提供を始めています。

[view more 3](#)



view more 1

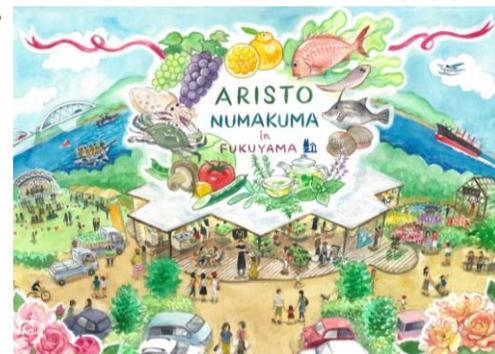
道の駅アリストぬまくまの再整備

開業から約30年、市内唯一の道の駅として、暮らしと産業を支えながら地域に親しまれてきた「道の駅アリストぬまくま」は、2029年度のリニューアルオープンをめざして検討を行っています。

まちぐるみの道の駅

本市南部地域の観光・交流拠点の一つとして、多様な関係者が連携し再整備に取り組む「まちぐるみ」の姿勢が評価され、国土交通省がリニューアルを重点支援する「『道の駅』第3ステージ応援パッケージ」に中四国地方で唯一選定されました。

道の駅アリストぬまくまの未来像



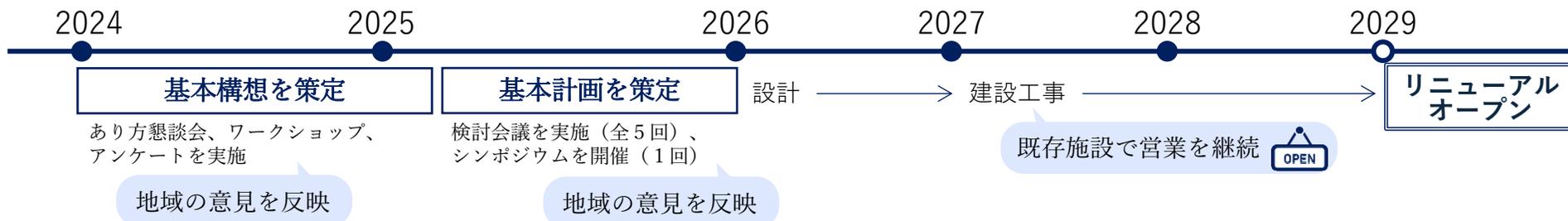
検討されている特徴的な機能

- 情報発信…旬の見どころや体験コンテンツなどの情報発信の強化 など
- 地域連携…地元産品販売（産直市）、飲食（レストラン、コミュニティカフェ）
地域情報交流スペース など
- 地域振興…地元の文化イベントやワークショップ等を開催できる
多目的スペース、子育て支援スペース など
- 観光・体験…特産品コーナー、サイクリングロードの中継拠点機能 など

最新情報は福山市ホームページへ

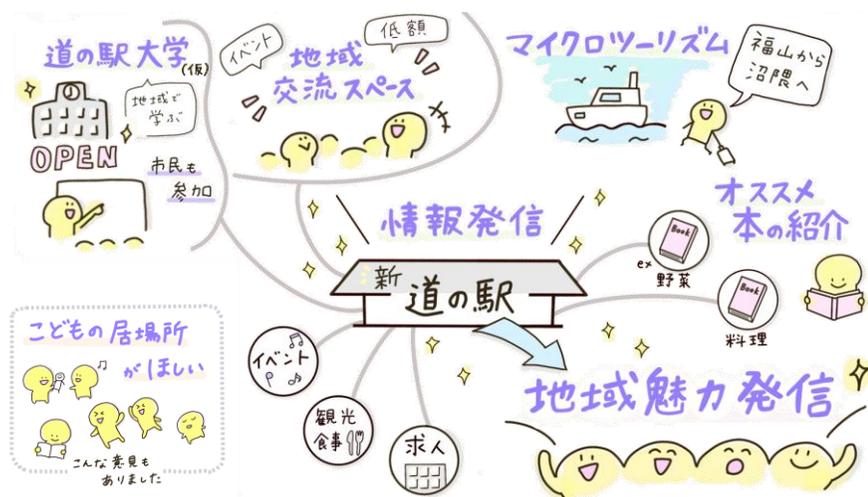
アリスト 再整備 検索

経過と予定



道の駅を中心に！**地域全体を盛り上げる取組が始まっています**

地域の意見交換の場（ぬまトーク）でも、地域を盛り上げるために道の駅でできること・したいことについて、多くのアイデアが出され、実際に次のような取組が既に始まっています。



地域の掲示板

地域の情報を道の駅でまとめて発信します。
(詳しくはP55へ)



道の駅に図書館の本コーナーを設置

隣接する図書館で借りた本を道の駅で読む、図書館利用の後に、道の駅に寄って、ついでに夕飯の食材調達…そんな道の駅と図書館の相互利用による相乗効果を生み出すきっかけになればと、隣接する図書館のおすすめの本を月替わりで紹介を始めました。



地域でつくる学びの場「道の駅大学(仮)」

沼隈に住んでいる人や働く人たちが、自分たちで教え合い、学び合う機会をつくります。2025年11月に第1弾として、モーニングヨガを実施しました。
(詳しくはP54へ)



地元学生作成のお皿

道の駅のレストランで大活躍！

沼隈特別支援学校の生徒によって制作されたお皿が道の駅のレストランで使われることになりました。使う人の笑顔を想像して作られたお皿は利用者にも好評であり、まちを盛り上げるきっかけとなっています。



イラストは、ぬまトークのグラフィックレコーディング※から抜粋

※グラフィックレコーディング…会議や講演の内容をイラストや図、文字を使ってリアルタイムにまとめていく手法

view more 2

地域で広がる海の取組

内海町は田島・横島の両島から成り、海とともに歩み、歴史を重ねてきました。基幹産業は水産業であり、内海で獲れる四季折々の瀬戸内ならではの魚介類は、地域の自慢・誇りとなっています。

内海町での特徴的な取組

県内一のノリの生産量を誇ります。毎年秋に行われるノリの種付けは、箱崎地区の風物詩であり、守っていききたい大事な風景です。



ノリの種付け

また、ロータリークラブなどとともに豊かな海を守るため、アマモの播種（種まき）などによる藻場の保全にも取り組んでいます。



アマモの播種

将来の水産業の持続・安定化に向けて、2018年からカキの養殖を開始し、通常より大粒で、季節を問わない美味しいカキを生産しています。



内海のカキ

うつみカキセンターでは、手作業で行っていた選別や洗浄などの工程を機械化し、作業の効率化や品質向上に取り組んでいます。



2021年うつみカキセンター設置



アイゴは、魚や海洋環境にとって重要な役割を果たす藻場を食い尽くし、漁業に重大な影響を及ぼす厄介者。食べようにも丁寧な下処理が必要で流通しにくい…

海の厄介者を使ってみんなを笑顔に！！

海洋環境改善に向けた個別連携協定を締結

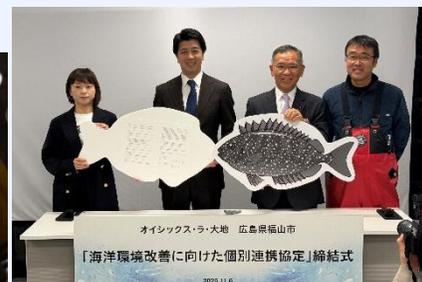
福山市×オイシックス・ラ・大地(株)

本協定は、福山市内漁業者が漁獲したアイゴについて、内臓の処理といった一次加工を施した上で、オイシックス・ラ・大地（株）が買い取り、商品化して市場へ流通させる取組です。

アイゴの活用によって、藻場衰退を軽減、そして新たな藻場を再生し、海洋環境を改善していくことをめざしています。この取組により、安定的な漁業活動の確保、漁業者の収入安定化による持続可能な漁業モデルの構築、そして福山市の新たな魅力へとつなげていきます。



開発されたアイゴのコンフィ



オイシックス・ラ・大地 広島県福山市

「海洋環境改善に向けた個別連携協定」締結式

2023.11.0

豊かな海でまちを元気に

豊かな海を守ることは、多くの人のメリットとなります。例えば、海の魅力を生かした体験や民泊などの取組により、地域経済の活性化や関係人口の増加が期待されます。

こうした取組により内海のファンになっていくと、地域に関わる人も増えて、まち全体の活力につながっていきます。



海洋環境の改善に関する官民共同会議

現在、瀬戸内海では栄養塩類の不足や海底環境の変化、気候変動による海水温の上昇など様々な変化が起きています。

こうした中、2025年7月に「**海洋環境の改善に関する官民共同会議**」が立ち上がりました。

カキの大量死などの当面の課題解決に取り組むなど、様々なステークホルダーが役割分担しながら、豊かな海を育む環境を下支えしていきます。

view more 3

せとうちエレジー ～福山沼隈半島体験博～

鞆未来トンネルの開通により、沼隈半島内の移動が円滑になったことをきっかけに、南部地域全体の体験コンテンツを掘り起こし、観光資源の創出につなげるため、「せとうちエレジー～福山沼隈半島体験博～」を実施しました。引き続き、多様な関係者が連携し、南部地域の観光振興に取り組んでいきます。

開催期間：2026年2月1日から3月29日まで

プログラム提供者：住民や地域の事業者

提供プログラム数：21

2026年度も
開催予定！
(年2回)

期待される効果

- ・多彩な体験型プログラムの創出による誘客の促進
- ・地域資源の再発見と「稼ぐ力」の向上
- ・関係人口の創出と拡大

プログラムの一例

平家谷おばちゃんガイドと歩く、赤に染まる隠れ里



潮風に吹かれ、西のSHONAN (沼南※) で初めてのヨット旅



シーカヤックで食べに行く！海苔と牡蠣の田島、青空ランチ！



元イタリアンシェフ直伝の本気のナポリピザ作り体験



※沼南 (しょうなん) …福山市の南に位置する沼隈半島南部を沼南 (しょうなん) エリアという。

沼隈

地域を盛り上げるために
～意見交換の歩み～

2025年7月から、まちの変化をきっかけに
未来の沼隈エリアのまちづくりを話し合う場として
ぬまトークを開催。

地域で活動をしている人・団体、学校関係者、
地域から推薦された人、事業者、企業の人など
約20人が集まり、まちの魅力や自分たちにできる
ことについて意見交換やアイデア出しを行いました。

第1回は「まちに対する思い」

「まちが良くなるためにやりたいこと」

「困っていること」について話し合い、

第2回は取組のアイデアを考え、

第3回でアイデアの具体化を行いました。

自分たちがやってみようと思えるもの、
すぐにできそうなもの、本当に必要なもの。
そんな視点で、できることを考えました。



会議名称は、第1回の参加者からアイデアを募集し投票で決定しました。
「ぬまくま」について「話す（トーク）」という意味です。



まちへの思い



取組を進める上での
3つのキーワード

地域交流

情報発信

資源の
磨き上げ

ぬまトークについて、各回の詳細は
福山市ホームページへ

福山市 ぬまトーク 検索

3つのキーワード

地域交流

沼隈町には「^{いっかこうろく}一荷合力※」の精神で、自らまちをよくしようと活動を行う人がたくさんいます。まずは、いろんな人を知り、地域を知り、つながることがまちをよくする第一歩です。そして、イベントや事業を通じてつながりの輪を広げ、仲間の絆を深めます。

情報発信

「日頃の活動やイベントなどの地域の情報」「観光スポットやアクティビティなどの観光情報」これらの情報（ヒト・モノ・コト）を、まちの魅力として地域内外の人に発信します。

資源の磨き上げ

過去から受け継がれてきた歴史文化や自然資源。これらを次世代に大切に引き継ぎます。また、新たな価値を生むよう、アップデートしていきます。これまで見逃されてきた「なんでもないこと」が観光資源になるなど、新たな魅力づくりにつながるかもしれません。

※一荷合力…沼隈町に古くから伝わる言葉で「地域のことはみんなで助け合う」ことを意味するもので、この精神は今も地域に受け継がれている。海に面する沼隈町では、家の新築にあたって瓦を船で運んでおり、その瓦を建築現場まで近所の人々が力を合わせて運び込んだことが、一荷合力の語源であると言われている。

地域交流

Process

2025

2026

2027

2028

2029

●---順次実施---●---検証・改善・継続--->

●つながりづくり

まちづくりを行っている人同士がつながる場や、若い世代を始め様々な人がまちに関わるきっかけとなる場づくりを行います。

Pick up

大人の部活動



ぬまトークのように
集まれる場

ぬまトークのような、ゆる〜くつながりながら沼隈について語り合い、ワイワイ楽しく活動できる場をつくりたいです。こどもたちの将来のために、地域を超えてつながっていきます。

Pick up

沼南高校 × 能登原自治会連合会

約40人で白浜海岸の清掃を行いました。ぬまトークでのつながりをきっかけに、生徒と地域住民の新たな世代間交流が始まっています。

●交流イベント

多世代や外国人などを含め新たな仲間との交流機会をつくり、取組の輪を広げます。

Pick up

地域でつくる学びの場

「道の駅大学（仮）」

地域交流の場として、地域の人がお互いに教え合い・学び合える機会をつくりたいと考えました。第1弾のモーニングヨガでは、地元社会福祉法人が運営するジムのインストラクターに指導してもらい、大好評だったため今後の定期開催に向けて検討をしています。今後も、「楽しそう」「参加してみたい」と思える交流機会をつくり、地域の活動や魅力がもっと多くの人に伝わることで、沼隈のファンを増やしていきたいと思っています。



道の駅アーティスト
ぬまくま駅長



2025年11月1日
モーニングヨガの様子

情報発信

Process

2025

2026

2027

2028

2029

順次実施

検証・改善・継続

● 地域情報の発信

日常的な地域活動や沼隈地域の人の魅力などについて、情報発信が活発にできる仕組みづくりを行います。

● 観光情報の発信

点在している地域の観光コンテンツを商品カタログのように集約し、分かりやすく発信していくことで、地域のファンを増やしていきます。

Pick up

地域の掲示板

「地域住民の知りたいこと」や「地域を訪れた人に知ってほしいこと」をまとめて発信することで、交流を促進していきたい。そんな思いで「見て楽しい」掲示板を道の駅に設置する検討を始めました。



Pick up

観光情報発信プロジェクト



沼隈町観光協会

「今が見ごろの花って何？」「道の駅で買い物した後に立ち寄れるところは？」「夕日がきれいに見えるフォトスポットはどこ？」などなど
沼隈の隠れた魅力をぜひ多くの人に知ってもらいたいです。
皆さんがほしい観光情報を分かりやすくお届けしたいと思い、方法を検討中です。

Pick up

沼隈キラリ人



沼隈で活躍する人にスポットを当て、図書館だより・交流館だよりなどにリレー形式で紹介することを考えています。
沼隈でキラリと輝き、頑張る人を応援します。



資源の 磨き上げ



●人材育成

これまで受け継がれてきた歴史文化や自然資源などの大切な知識・技術を次世代につないでいきます。

Pick up

平家谷の歴史を次世代に継承



いつも私たちが紹介している平家谷の歴史を、至誠中学校の生徒が英語で紹介した動画の制作に取り組んでいます。また、沼南高校の生徒には、伝統の踊り「すぼかずき」を教えることになりました。平家谷の歴史を次世代に知ってもらいたいと考えています。

Pick up

平家谷のつばきオイルづくり

平家谷おばちゃんガイドが体験アクティビティとして提供しているつばきオイルづくりについて、沼隈特別支援学校と連携した取組ができないか、地域で話合いが始まっています。



●モノ（自然・歴史）

沼隈町ならではの歴史文化や自然資源などを磨き上げ、新たな魅力や観光資源としての新たな価値を創出します。

Pick up

沼隈のお土産開発

土産開発



お土産の開発者

これまで沼隈には「これ！」というおススメのお土産がなく「沼隈を発信するためには土産物が必要だ」と考え、阿伏兎観音の絵馬をイメージしたお土産を地元有志と一緒に開発しました。

ぬまトークの中では、沼南高校がプリンを開発するアイデアもあり、今後が楽しみです。

Pick up

沼隈の神楽

地域に復活した神楽団は、披露の機会が増え、その輪を広げています。地域全体で神楽を次世代につなげていきます。



様々な取組のアイデア

動き出しそうな取組の“芽”

地域交流

ぬまくまマルシェ

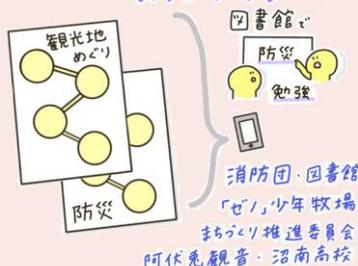


ツネイシホールディングス
「ゼリ」少年牧場 アリストぬまくま

唄声ひびき祭り&からめて



観光・防災 スタンプラリー



資源の磨き上げ

トレッキングルート整備



学校
関係者・PTA サポーター

沼隈ロゲイニング



観光チェックポイントへ
各体育会
ツネイシホールディングス

マイクロツーリズム →ちよい旅



アリストぬまくま
あぶと観光汽船
阿伏免観音
観光協会
旅行会社



ナイト アクティビティ

・プロジェクト
「マッピング」

・神楽
etc
周辺の宿・図書館
海水浴場

情報発信

観光 MAPづくり



オープンチャットも活用

お困りごとバンク



阿伏免観音さんご 祈禱付き おっぱいプリン



内海

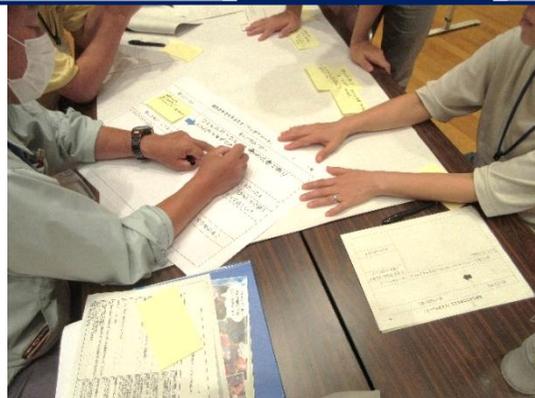
地域を盛り上げるために
～意見交換の歩み～

地域住民からの
「もっと地域でコミュニケーションをとったり、
思いを共有する場がほしい」
という声を受け、
内海町まちづくりミーティングを企画。

内海町全体でもっとつながるために、
地域（田島東部・田島西部・横島）や
世代を超えたミーティングを行いました。

地域の役員に限らず、まちの事業者や
これからまちづくりを担う若者など、
37人が参加。

第1回は「内海町ってこんなまち」
第2回は「みんなでできること」
を考え、意見交換を行いました。



内海地域の声

内海町の魅力(よいところ)

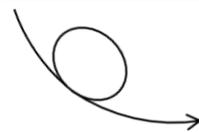
海、山などの自然
子育てしやすい
海水浴場やトレッキング
民泊事業
人とのつながり
たくさんの観光コンテンツ
自由でゆるい空気感
魚介類がおいしい
空き家の再生が活発
カキ、ノリ、魚、アサリ
地域住民の活動

内海町をこうしたい

きれいな島を保ちたい
魅力発信
自然を生かしたまちづくり
知名度向上
内海の良さを知ってほしい
人とつながりたい
空き家を活用したい
こどもの憩い・学びの場
集える場所がほしい
民泊をきっかけに移住体験・島留学

みんなのできること

海岸のごみ拾いや草取り (+交流イベント)
自然環境の整備
スポーツごみ拾い
内海町の魅力を発信するSNS
名所めぐり
観光・食べ物マップづくり
魅力発信イベント
空き家情報のホームページ立ち上げ
住民同士がゆるくつながれる場
地域の人と語る場がほしい
内海町内で集まれる場所をつくる



3つのキーワード

オール内海

豊かな海

魅力発信

内海地域の声

3つのキーワード

オール内海

田島も横島も。昔から住んでいる人も移住者も。
地域や世代を超えてつながり、内海を盛り上げたい。
最近の内海では、合言葉のように聞こえてくる言葉です。

豊かな海

「海」は内海にとって誇りであり、生活にも密接に関わる地域の宝。
海の環境を守り、未来につなぐために自分たちでできることを、
内海の誰もが考えています。

魅力発信

内海を未来につなげるために、まずは知ってもらう。
魅力を発信し、内海町のファンを増やしていく。
内海町内外の人へ働きかけをしていくアイデアがたくさん出ました。

今、取り組んでいること

まち歩きイベント

2025年11月24日、横島と田島を結ぶ陸橋を中心とした地域で、まち歩きイベントを実施しました。

普段何気なく通っている道も、地域や世代を超えて会話しながら歩くことで、新たな視点が生まれ、今まで気づけなかった魅力を再発見できました。

参加者からは

「住んでいても知らないことがたくさんあった」

「ほかの参加者と交流ができて楽しかった」

といった感想も聞かれ、

オール内海での活動の機運が高まりました。

観光情報の発信

以前から取り組まれていた民泊体験に加え

「福山沼隈半島体験博（詳しくはP50へ）」が始まるなど、内海町にある豊かな観光資源を体験できる取組が盛り上がりを見せています。

まちづくりミーティングでも

「地域の魅力を発信したい」

「内海のことをもっと知ってほしい」といった意見が多くあり、

現在、沼隈地域との連携も視野に入れながら、観光協会において議論を始めています。



今後、取り組みたいこと

ごみ拾いだったら すぐにできるかも

オール内海で取り組めることってなんだろう。
内海では、既に海を守るための清掃活動を行っている人たちもいます。ノウハウを教わりながら、田島の人が横島に、横島の方は田島に。出ているアイデアの中でも地域を超えた清掃活動なら、すぐにできるのでは？



定期的に交流できる場って やっぱり必要だよ

人が集まらないと、新しい取組も始まりません。
地域の情報を交換したり、他愛ないおしゃべりをしたり。
一度きりではなく、誰もがいつでも気軽に集まれる場があれば、自然と「何かを一緒にやろう」と声をかけあうことができます。そして内海だけでなく、沼隈とも交流の場を広げたいなあ。



意見交換会で出た アイデアを実現したい

せっかく良いアイデアがたくさん出たんだから、実現したい。
意見交換会の参加者からは、そんな声も聞こえてきます。
でもアイデアを実現するには、誰がどうやって動いたらいいんだろう。できることから始めていきたいなあ。



内海の取組は、まだ始まったばかり。
これからも話し合いを重ね、アイデアを具体化していきます。

同じ釜のメシを食う

沼隈と内海のうまいメシ

みんなで囲って食って、仲間づくり

地域のことや地域の人を知るためには、まず会話をするのが重要です。美味しいごはんを食べると、誰でも自然と笑顔になり、会話もどんどん弾みます。

会議の場では出てこないような本音の話や、何気なく過ごしていると知らなかったまちの歴史、ポロっとこぼれた困りごとを解決するアイデアや人。

「堅苦しい場」ではなかなか深まらないコミュニケーションによって、仲間づくりをすることができます。

また、食べるものも、地元の飲食店を借りたり、その土地ならではの特産品を持ち寄るなどすれば、まちに対する愛着も深まります。



5 駅家地域

変わるまちの姿



駅家地域には、デニムなどの繊維産業、食料品製造業といった多様な産業があり、2025年3月に福山北産業団地第2期事業地の造成・分譲が完了するなど、今後の更なる雇用や人流の増加が期待されています。

また、浸水対策や服部大池の防災工事が概成するとともに、福山西環状線の整備が進むなど、安心・安全・快適に暮らせる基盤整備が行われています。

こうした中、地域では、駅家地域最大の公園である駅家公園を中心とした地域のにぎわいづくりの取組が始まっています。



福山北産業団地



服部大池



福山西環状線

新たなにぎわいに向けた地域の動き

これまで地域のこどもから高齢者まで、散歩コースや遊びの場として親しまれてきた駅家公園。もっと地域の「憩いの場」「交流の場」となるよう、「駅家公園活性化プロジェクト」が始動しました。このプロジェクトでは、駅家公園を活用して、地域によりにぎわいを創出するため、福山市中央公園で導入されているPark-PFI制度を含め、民間の柔軟な発想による運営方法についても検討する予定です。



ポテンシャルを
秘めた
駅家公園

良好な交通アクセス
(JR福塩線万能倉駅・国道486号に近接)

「駅家公園活性化プロジェクト」

地域が主役となった
駅家地域の新たなにぎわいの創出に向けた取組



駅家公園活性化プロジェクトとは？

駅家公園から始まった取組が少しずつ広まり
元気で暮らしやすい駅家エリアへ

駅家公園がこれから
どうなっていくのか、
すごく楽しみなんよ。



- ・ 駅家公園の取組や活力を駅家全体や周辺エリアに波及させるために発足
- ・ 駅家・加茂町を中心に、商工事業者や地域住民、福祉関係者、子育て世代など様々な人が参画

当面のプロジェクトの活動方針（第1回駅家公園活性化協議会で決定）



交流

駅家公園を「地域コミュニティの活動の拠点」として再生し、こどもから高齢者まで安心して集える「暮らしの交差点」にする。



防災

「福山市北部地域の総合防災公園」として防災機能や地域防災訓練の拠点として整備し、地域防災力の強化を図る。



経済

地元の特産品、文化、技術、人材などを生かしたカフェなど収益事業（Park-PFI制度導入検討）による地域経済の循環を生む仕組みの構築を検討する。



地域課題

教育・福祉・観光・防災などの多様な地域課題に柔軟に対応可能な公園を創出する。

駅家公園活性化プロジェクトの進め方

2025年度

1 プロジェクトの立ち上げ（第1回駅家公園活性化協議会）

駅家公園活性化プロジェクトの概要や活動方針、Park-PFI制度の活用について、参加者同士で共通の認識を持つ。まずはできる取組から始める。

2 駅家地域の歴史・現状、魅力と課題、まちの将来像を考える（第2回駅家公園活性化協議会）

駅家地域の現状や駅家公園の歴史や成り立ちを学び、現状や地域特性を踏まえたうえで、駅家地域の良いところや地域課題、まちの将来像について意見交換する。

2026年度

3 駅家公園の利活用方法・施策検討

まちの将来像の実現や地域課題の解決のため駅家公園をどのように活用したらよいか、駅家公園の利活用方法・施策を検討する。実証事業の具体について話し合う。

4 実証事業

Park-PFI制度の活用を始めとした、駅家公園での様々な実証事業に取り組み、効果検証を行う。

5 ビジョン・基本方針及び実施計画の策定

実証事業の結果を参考に、駅家公園のめざすべき姿である「ビジョン」と、ビジョンを具現化するための「基本方針」及び「実施計画」を策定する。

ロードマップ



駅家地域がこうなったらいいな ~第2回駅家公園活性化協議会の意見から~

人と人がつながる
コミュニティの場がある

いろいろな世代が関わり、
楽しく過ごせるまち

こどもが
大人になっても
帰ってきたくなる

「遊びに行こう」と
思ってもらえる

こどもが安全に
遊べる場所がある

市内外から遊びに
来てもらいたい

こどもや高齢者
障がい者など
誰もが安心して暮らせる

元気に働ける
職場がたくさんある



暮らしの中のイベントづくり

交流

防災

経済

地域や商工会、大学生やPTAなど、地域内外の様々な主体が連携してにぎわいを生み出すイベントを実施し、一年を通じて断続的に人が集まり、交流できる機会をつくります。

「小さなイベントでもいい」「やっていて楽しいこと・みんなが必要だと思っていること」を、役割分担しながら無理なく実施し、非日常を日常化していきます。

★イベントイメージ

- ・万南^{まんなん}ゆめフェスタ 交流 経済
- ・ふくきたフェスタ 交流 経済
- ・防災体験イベント (New!) 防災
- ・ビッグキャンプファイヤー (New!) 交流

★展開：イベントの参加者や運営に関わる人を増やし、地域内外の人が関わる場にしていく

コラム

ふくきたフェスタ

駅家地域を盛り上げようと、2024年に初開催された「ふくきたフェスタ」。

2025年に開催した第2回はさらにパワーアップ！

地元の「蛇円太鼓」の演奏で幕を開け、手作り雑貨や体験型ワークショップ、キッチンカーやグルメ出店、昔懐かしい縁日まで、バラエティ豊かな店舗が駅家公園に大集合！

駅家内外から来られた多くの人でにぎわいました。2026年も4月19日に開催予定です。



地元の特産品、文化、技術、人材などを生かしたカフェなど収益事業

経済

(Park-PFI制度導入検討)

●Park-PFI制度導入検討

Park-PFI制度により、地域人材が運営する地元特産品を活用したカフェなどの施設を設置し、駅家公園を魅力的な公園にするとともに、地域経済の循環を生む仕組みを構築することを目的に実施するもの。

●実証実験（現時点案）

主 体：駅家公園活性化協議会構成団体
 店 舗：カフェ等（仮設店舗）
 実施時期：2026年6月頃予定

※ 実証実験の詳細については、第4回活性化協議会（2026年5月開催予定）にて協議して決定。



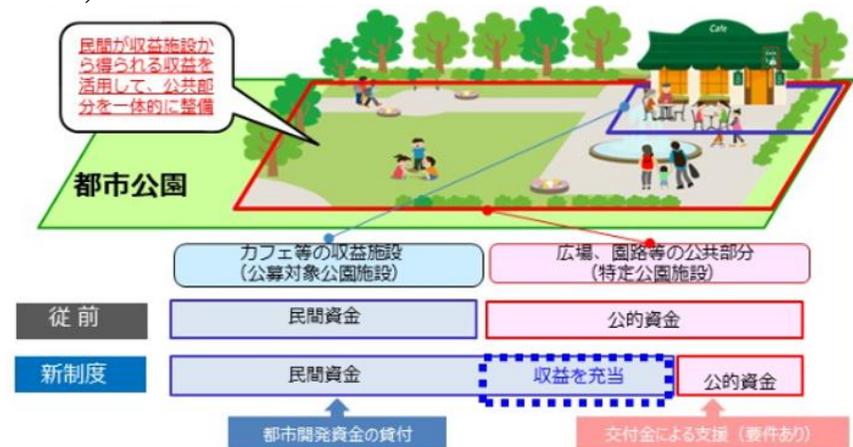
中央公園での実証実験の様子

公募設置管理制度（Park-PFI制度）の特徴

- 都市公園において飲食店、売店等の公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者を、公募により選定する手続き
- 事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、事業者には都市公園法の特例措置がインセンティブとして適用される

条件：園路、広場等の公園施設（特定公園施設）の整備を一体的に行うこと

(イメージ)



出典：国土交通省「都市公園の質の向上に向けたPark-PFI活用ガイドライン」令和7年5月30日改正

今後、取り組みたいこと

交流



地域の情報を交換したり、他愛ないおしゃべりをしたりしながら、日常的に地域の多様な世代・立場の人が集い、交流する場を創出していく。

アイデア例

- ・組織を超えてのイベントづくり
- ・子どもと親が地域に関わる機会づくり
- ・学生と地域が交流する機会づくり

経済



地域資源を生かした産業振興と地元経済の活性化に資する機会を創出していく。

アイデア例

- ・地元産品を使ったマルシェ
- ・地域産業や文化を体験できるワークショップ
- ・地域の特徴的な企業と住民がつながる機会づくり

駅家の取組は始まったばかりです。駅家・加茂を中心とした地域の活性化をイメージしながら、まずは駅家公園で何ができるか、ビジョン・基本方針及び実施計画の策定に取り組んでいきます。

防災

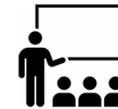


近隣に大学や病院、消防署などがある駅家公園を防災拠点として機能強化する。また、地域の防災意識の向上を図りながら、地域の防災力を向上していく。

アイデア例

- ・災害の時に、安心して集まれる空間づくり
- ・多世代での防災訓練
- ・マンホールトイレの利用訓練

地域課題



子育て・高齢者支援・教育などを視野に入れた誰もが使いやすい共生型公共空間をつくっていく。

アイデア例

- ・子どもがのびのびと遊べる空間づくり
- ・障がいのある人も参加しやすい地域行事
- ・福祉などの専門職が住民とつながるまちづくり

まだまだある！地域の魅力

1 各地域の動きを見てきて
どうだった？
地域ならではの魅力を生かして、
議論や取組がこれから加速して
いくね。



3 おもしろそう！って思ったら、
参加したり、まねてみるのも
ひとつの方法だよ。

2 身近な所でも取組が始まって
いましたね。
自分も関わることで、
地域への愛着が深まりそうです。
住んでいる地域が楽しいって
思えるなんてワクワクです！



地域の拠点づくり戦略 ～自分たちでつくる、まちの景色を変える 地域のアクション～

発行月 2026年（令和8年）3月

発行者 福山市企画財政局地域拠点形成推進部地域拠点形成推進課
〒720-8501 広島県福山市東桜町3番5号

電話 084-928-1303